

船井奨学金報告書 2018年12月

磯村真由子

ETHに留学しております磯村真由子と申します。今学期も研究漬けの毎日に加えてTAのお仕事があり、両者とも苦勞しながらもなんとかやりきる事ができ、2018年は非常に充実した年になりました。

さて、早くもこちらにきて2年半ということ、そろそろ自分の進路についても考えるようになりました。Ph.D.取得にはまだ遠いものの、日本から講演にいらっしゃった先生方とお話すると必ず聞かれる質問である為、早めに意識するに越したことはないな、と少しずつ意識をするようになりました。また、留学を希望している日本の学生さん方とお話する機会もよくあるのですが、こちらの学生その後の進路はやはり興味がある事の一つである印象を受けた為、今回の報告書ではETHのPh.D.取得後の進路について、自分の周りの人たちとの会話を元に書こうと思います。

まず、ヨーロッパと日本の大きく異なる部分は就職活動時期が定まっていないということです。Ph.D.を取る時期も、次のポジションをスタートさせる時期も人によって全く異なっており、日本のようにいついつまでにこれをしなくてはいけない、といった事はありません。その為か、学生は進路について非常にのんびりしている印象です。4年目くらいの学生に進路をどう考えているか聞いても、大体「まだ分からないなあ」のように曖昧な返事を受ける事が多いです。また、Ph.D.取得後すぐに次のポジションに移る人は非常に稀で、(たまりにたまった未消化の)有給休暇を使って長いバケーションを取る人が多いです。そのバケーションを旅行などに充ててのびのびする人もいますが、中にはその期間に就活をする人もいます。

驚いたことに、化学を続けるかも分からない、と答える学生も結構な数います。もう研究は十分だというのは少し悲しいことではありますが、逆に言えばPh.D.を取った後でも実に様々な職業の選択肢があるということでもあります。私の研究室から化学研究系以外に進学した人の進路はコンサルティング会社や、特許の仕事など、研究ではないものの研究で養った知識を活用できるお仕事であることが多いです。

もちろん化学企業に進学する人もいます。スイス・ドイツには化学系企業がたくさんあるため、ほとんどの学生がどちらかの国の企業に就職します。具体的には世界屈指の製薬会社であるRoche, Novartisを始め、Lonza, BASF, Givaudanなど大企業が一般的です。また、スイス・ドイツの企業となると私たち留学生にとって気になる部分はドイツ語の問題です。もちろんこれらは世界中に支店を持つグローバル企業であるので英語を用いる事は可能ですが、やはり研究室にいるときよりかは、ずっとドイツ語を要求されると聞いたので、少なくとも基本会話は必要であると思います。ちなみに、ETHの学生は大多数が修士と博士課程の間に企業にインターンに行っていますが、インターンはあくまで企業経験としてであ

って、Ph.D.後に同じ企業に就職している人はほとんどいません。最後にポスドクです。ポスドクとしての進学先はほぼアメリカの有名校です。日光に飢えているヨーロッパの人たちにはカリフォルニアが特に人気です。ポスドクの場合はお金を取ってこなくてはならない為、他の場合より少し早めに準備をしている印象です。ディフェンスの日にちにおおよそ目星がついたと同じくらいまでには、進学希望先の先生にコンタクトを取ります。同時に、奨学金のアプリケーションに移ります。奨学金の選択肢は複数ありますが、ほとんどの学生がまず SNF(Swiss National Science Foundation)を目指します。お金が取れなかった場合は進学取り消しになることもあると聞いたため、なかなか長い期間ソワソワと安心できない時間を過ごすこととなります。ちなみに、ポスドクの後の進路ですが就職する人と、アカデミックに進む人、両方同じくらいいるようです。

このように、ヨーロッパでの就職は日本とは少し異なっており、皆時間をかけてゆっくりとやりたいことを考えている印象です。自分は留学当初は企業を考えていましたが、こちらに来て研究の楽しさを感じ、ポスドクという選択肢も出てきました。いずれにせよ、博士課程でたくさんの経験をし、結果を残す事が大切だと思うので、引き続き目の前の研究に全力を注いでいこうとおもいます。最後になりましたが、船井財団のご支援に、この場をお借りして心から感謝したいと思います。